The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	金山先生に教えていただいたこと
Author(s)	田川, 弘雄
Citation	大阪外大英米研究. 1994, 19, p. 17-18
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99165
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

金山先生に教えていただいたこと

田　川　弘　雄

金山先生の御退官記念論集に拙稿を加えていただけることについて編集の方々に深く感謝をし、私なりの感慨があるので、蛇足であることは知りながら、一言記させていただく。

率直に言って、私の原稿は論文とはいいがたく資料集である。原稿が募集された頃から体調をくずし、入院手術ということで執筆できる状態ではなかった。とはいいながら金山先生の論集には是非とも参加したかった。先生とは外大同期であるが、私としては学問、人生の両面においていろんな教えをいただく師として畏敬の念を持って接してきたのである。というとあの態度でと信じてもらえないかもしれないが、心情的には常に「この人には何をしてもかなわない」という敬意を持っていたのである。

ことの始まりは、昭和28年、私が外大２年生のときである。少し年長の学生が我々のクラスに編入してきた。クラスメートの一人で今テレビ界の重鎮になっている男が素っ頓狂な声を上げて「俺の先生だ」と叫んだ。彼は神戸の高校で教わったというのだ。大学を出て教職の経験を経て再度勉強の志を立てられたのだ。発音のうまさ、読みの深さ、何よりも黒板に書く字の枯れ加減には参ってしまった。働きながらの苦学だったのだろうが、抜群の成績で卒業され、しばらく教職に戻った後、大学院に進まれた。その間にフルブライト奨学金でアメリカへ留学された。この金山先生の奮闘ぶりに私は強く刺激され、外大卒業後暫く高校に勤めていたのを辞め大学院に行く決心がつき、フルブライトの試験に挑戦、留学することができたのだ。

外大に就職してからも、先任の金山先生に追いつこうと自分にむち打って

今日までやってきた。金山先生に教わったのは英語を本当に読めるということの大切さだった。意味の取れないところがあって相談をかけると、真剣に考え良い示唆をくださった。辞書を徹底して引き、文法の基本に忠実に、豊かな読書知識からの推論にもとづく意見は常に正しかった。時たま自分の説がよいのではと思ったこともあったが、いつも後で誤りに気づいて恥ずかしい思いをしたものだった。入試問題を一緒に作っていても誤りをおかすのを何回か救っていただいた。今、日本文学の英訳の授業で学生をしごいているが、The Reeds に発表した拙訳を読んで適切な批評をしてくださったこともあり、一度「ミスが多いですね」と言われたことがこたえて、下手ながら練習に励んできた。

金山先生の退官の論文集には「師」の教えに報いるだけの良い論文を書きたいと思って準備をすすめていた。一昨年はニューヨーク大学などで資料をあつめたが、病気のために十分に論理的な構成ができていない。と弁解がましく書いてきたが、病気を口実にすることは金山先生には通じないことを思い出した。大病を乗り越え、療養リハビリの最中にも優れた研究を続けてこられたことを思うと私のは病気の内に入らないだろう。病院に見舞いにきてくださりLIFE発行のユーモア溢れる写真集をいただいた。笑いのセンスだけはと自負していたが、ここでもまた負けたと思った。

外大の教師が語学力があることは勿論であるが、真の意味で読める人は少なくなってきているような気がしてならない。学問分野の細分化により、専門の研究に忙しく、広い読書ができず、いわゆる博覧強記の旧外語系の教師の理想像は崩れ、研究者としての業績をあげることに没頭せざるを得ないのが実状だ。金山先生は真の語学力と優れた研究者の両面を備えた得難い先達であり、学生とともに私など教員にも多くのことを教えてくださった。学校を離れられても、いつまでもご健康で、旧にかわらぬご指導をお願いします。